

さなごうち

PUBLIC INFORMATION SANAGOCHI

■10月23日(日) 高樋チーム 7年ぶりの優勝!

第45回 佐那河内村民体育祭

今年も

明るく・豊かに・たくましく
をテーマにカー杯頑張りました。

優勝 高樋
準優勝 宮前東
第3位 嵯峨
第4位 宮前西



平成23年10月23日(日) 村中央運動公園グラウンド

IP電話番号

村役場代表 5000~5004
議会事務局 5005
教育委員会 5006
社会福祉協議会 5007

総務企画課 ☎679-2113 出納室 ☎679-2972 産業建設課 ☎679-2115
住民福祉課 ☎679-2114 議会事務局 ☎679-2152
社会福祉協議会(農振センター) ☎679-2304

FAX679-2125

教育委員会 ☎ 679-2817・FAX679-2173

土・日・祝日 及び夜間

●TEL 679-2111
●IP 5000~5004
●FAX 679-2125

主な内容

東日本大震災被災地等現地学習会 …… 2~7

保育所入所申し込み受付について …… 9

東日本大震災被災地等現地学習会

10月17日(月)から20日(木)まで、3泊4日で東日本大震災被災地等現地研修会に、自主防災組織から2人、住民会議から5人、消防団から1人、建設業協会から1人、議会から2人、役場から2人の計13人で村自主防災会連絡協会会長の仁羽悟郎さんを団長に研修してきました。

17日(月) 1日目。

仙台空港に着いてまず私たちの目を疑ったのは、空港のすぐ目の前にたくさんのがれきの山があったことです。3月11日に起こった東日本大震災。それから7ヶ月経過していますが、たくさんのがれきが山積みみされていました。仙台空港から石



くりこ (玄関にて)



仙台空港近くの広場にあった「がれきの山」
こんな山がいくつもありました。

巻市に向け仙台東部道路を通りましたが、この自動車道まで津波が押し寄せたそうです。道路

路際の田には、まだたくさん車が埋まっています。自動車道から見ても海はぜんぜん見えないところ。また、路面も地震によりがたがたで、普通ではありませんでした。

そして、石巻市内に入った瞬間、目を見張



南三陸市内 一面がれきの山



南三陸市内のがれき



石巻市内の廃墟になったビルとがれき

りました。バスから見た景色は、がれきの山と、基礎だけしかない家屋の跡、廃墟となったビルが見えました。南三陸町でも同様で戦争でもあったのかと思いました。テレビで見た震災の風景とまったく同じでしたが、見ると来るとでは感じ方が違います。参加者も、全員言葉を失っていました。

バスは、1日目の目的地、気仙沼市大島に向かう間、ずっと同じよう

な風景が続き、いたる所でがれきの撤去のためにパワーショベルやトラックが動いていたり、一部では行方不明者の捜索も行っていました。

気仙沼市に到着したのは午後4時頃でしたが、大島は離島なのでフェリーに乗船します。この乗り場は、震災前から1mぐらい地盤沈下しており、現在でも進行していません。着いたときは満潮に近く、海面は地面すれすれでした。大潮の日には乗り場が浸水するそうです。フェリーに乗船し、船上から見た気仙沼市内の港は、どこから海でどこからが陸かわかりませんでした。フェリーはおよそ25分ぐらいで大島港に着きました。このフェリーは、広島県江田島市から送られたものである休暇村大島で1日目は終わりました。



広島県江田島市から送られた気仙沼港と大島港を結ぶフェリー

18日(火) 2日目。

朝一番にNPO法人「つなプロ」の畠一樹さん(徳島市丈六町在住。現在は大島に5月連休明けから単身で来て、島民と共に復興の手伝いを行っている。)の案内で大島島内を見て回りました。

まず最初に、大島が一望できる亀山に登りました。山頂からの風景はとても美しくすばらしいところでしたが、逆に被害の様子もはつきりとわかりました。震災当時、気仙沼港の火災により港の発泡スチロール製のトコ箱が燃え、この飛び火で亀山の斜面に燃え移り、三日三晩燃え続けた跡が木に残されています。この火災では消し手がいなくなつたため、中学生も消火活動を行ったそうです。

畠さんによると現在大島での死者は25人、行方不明者は6人で、仮設住宅は島内に3カ所あり、1カ所



気仙沼大島亀山山頂から大島全景。津波は手前の右の港からと左の海岸と両方から襲ってきて、真ん中で渦が巻いたそうです。(島が二分された。)

80世帯約100人が生活しているそうです。また、ここ大島も70cmから1m強、地盤沈下しており、水平にも25cmずれました。大島で有名な小田の浜も含め、風光明媚な砂浜も津波により流出し約3分の1になっています。

午前10時から、島内の公民館で公民館長の白幡雄一さんと、ボランティア団体のおばか隊長の村上広志さんより震災当時の話と、これまでの活動についてお話を聞きました。

公民館長の白幡さんは、震災の直後から大島の災害対策本部部長として活躍されました。「阪神淡路大震災の二の舞だけは踏みたくはない。」と一生懸命頑張つたそうです。島民全員が顔見知りでコミュニケーションの形成があつたため、次の行動に移りやすかつたことが一番すばりしかつた点のことでした。

おばか隊長は、島で唯一残つた船「ひまわり」あとで船長さんからの話があります。(で輸送した物資を仕分けし、島民に配ることから始まつた地元有志によるボランティア団体です。自分の家も被災しているのに、家のことよりもみんなのために頑張つていろいろなことができるのは「おばかしかできないよなあ」といついっしょから命をさされたそうです。)

現在は、がれきがどこにあつて、どこから順番に除けるのかなど自分たちで考えながら行動しているそうです。

このお2人の話を聞いていて、自助があつて、共助があつた。それもすぐにできた環境があり、そのことがすく島への復興に役立ったということが非常に勉強になり、本村でも活かせることだと感じました。

昼食後、休暇村の会議室で大島港の近くでお寿司屋さんを営んでい



たくじろうさん

た、「たくじろうさん」こと小松拓治郎さんより震災当時のお話を聞きました。

地震のその時は店にいました。お茶を飲んでいて地震が来てすぐに外に出ました。駐車場では立つていられないぐらい大きな揺れでした。このとき大島では震度7。「じびびび」といって揺れたらね。」

およそ3分ぐらい揺れました。揺れが収まって「すぐ津波が来る。」と考え、何も取らず家に向かつて逃げましたが、普通なら10分ぐらいで帰れるところ、倒木や地割れなどで20分以

上かかりました。それから高台に上がったときに第1波が来りました。

たくじろうさんの地域では、消防の指導の下、日ごろから訓練をしていたので、その地区全員が助かりました。

高台に助かつたみんなです。高台に助かりました。当時、雪混じりの雨が降りとても寒かつたです。それからしばらくして大島が火事になりました。

現在たくじろうさんは仮設住宅で生活しています。68歳、寿司屋を再会するかどうか「自信がないわけではないが、冒険する勇気がない。」と非常に悩んでいます。

続いて、午後2時過ぎより、場所を「気仙沼ちゃん」の宿アインスクリに移して宿の状況と、震災時十数mに及ぶ大津波を乗り越えた船「ひまわり」の船長である菅原進さんのお話を聞きました。

「アインスクリ」は、昔、萩本欽一さんの番組「欽どん」で一躍時の人になつた「気仙沼ちゃん」が営む宿です。

宿では、家の中でひざぐらいつまで津波が来りました。家の庭には1・25mの高さまで押し寄せました。「高台に歩いて逃げてください。」と防災無線で放送していました。すく横で車が波

に飲み込まれていました。水門を閉めにいつて亡くなった人もいました。

マニュアル通りにはいかない。自然災害と対抗しては勝てない。うまくかわす方法が大事である。」と「くりこ」の大將はおっしゃり、「ここは観光地であるが、被災して松は流れ、波止は壊れ、砂は流された。この状況で今後も観光ができるのか?」とも不安だそうです。

被災した当初、トイレも穴を掘ってごみを巻いて作ったり、廃車の車からバッテリーとウインカーをはずして明かりをとったりして乗り切りました。インフラが全て無くなったので、星がすぐきれいに見え、日の出とともに動き、日没とともに寝る。こんな生活も昔に戻ったようで、原始的な生活もよかったなあと感じた時もありました。

しかし、「くりこ」では、被災地に来るボランティアを大切にすることが一番大切なことと感じ、2時間待つて物資をもたらすより、その分ボランティアの接待をすることがいいと思い、2、3人で来たボランティアも受け入れました。この時、役所では団体の受け入れしかなかった。

次に大島で唯一残った動く船「ひまわり」の船長、菅原進さんよりお話を聞きました。



「ひまわり」と菅原 進さん

地震で揺れているときに家族には「津波がくるから逃げろ、逃げろ。」と逃がし、自分から車を出して、まず水門を閉めに行きました。この水門は日頃3人がかりで閉めていましたが、この時はなぜか1人で閉めることができました。その後、浜に戻って船を出しました。船を出すとは後ろは渦が巻き、家が見えなくなったのが見え、前を見ると壁のような黒い津波が来ているのが見えました。「船と一心同体だ。」と叫び、津波につつこんで行き、5つか6つくらい大きな波を乗り越えました。そのうち1つ目を越え、3つくらいは10mを越え

る特大津波でした。津波を乗り越えた後、そのまま夜明けまで大島周辺を漂い、明るくなつて辺りを見ると海には家の屋根や保冷車、20tくらいの船までありとあらゆるがれきがいっぱい流されていました。それらがれぎの間をぬつて大島に着岸し、夜寝ずに待っていた家族と再会しました。

「ひまわり」は唯一大島に残った船でしたので、人の行き来はもちろんのこと、救援物資の輸送からボランティア・急病人の搬送まで大活躍だったそうです。この「ひまわり」がなかったら、大島の復興は大きく遅れていたことでしょう。

2日目は、大島のいろいろな人からその当時のお話を聞くことができました。今後の大島での生活は、商店・旅館・漁業とこれをとつても大変だろうと思われませんが、きつと工夫を凝らして乗り切っていけると感じました。

19日(水) 3日目。

大島を後にし、気仙沼市から陸前高田市へ移動しました。気仙沼市内も大変な状況でしたが、陸前高田市でも南三陸町と同じで、何もかも流されていました。どこまでも続がれきの山、基礎だけしかない家の跡、廃墟となったビル、めちゃくちゃ



陸前高田市では「セルフ」の文字下まで津波が来た



気仙沼市内 どうやってこんなにも壊れるのか?



気仙沼市内 津波のすごさを物語る大きな船

そのような中、陸前高田市で、商店街の復興を願い活躍している(有)橋勝商店の橋詰真司さんよりお話を伺いました。



橋詰社長より話を聞く

震災前の陸前高田市の人口は2万3千人余り。近い将来人口2万人を切るだろうと危機感を持っており、震災前から市内で新しい仕事を作り雇用を守るために、地元の中小企業の若手の仲間と新しい仕組みを考えていました。

この震災で2千人弱の人が犠牲になり、住む家も店も全てが壊滅。そのため、近くの市や町に移住し、現在人口は1万7千人ぐらいいではないかと言われています。

市内は、海拔1〜2m。商店街

は海から2〜3kmのところにあります。それが、津波により2軒の商店しか残りませんでした。買ひ物は近くの町村へ行くしかなく、食べ物を買ひ求める日々が1ヶ月くらい続きました。ガソリンがない厳しい生活でした。そのため、5月1日に朝市を立ち上げ、テントで食べ物を買ひできるように、何とか保健所の許可を取り15店舗から始めました。現在170社が仮設テントで申請を出していますが、朝市を始めて半年を目標に、自分の店を作れるよう努力しています。

今まで、商店街だからこそできた小さな店がほとんどでしたが、震災後、仮設住宅の中でそれぞれの店主が広範囲にバラバラで生活しており、商店街としてのコミュニケーションがなくなりました。だからこそ、地元の20人(社長を中心に被災者の自立を促すために商店街の復活をめざしています。どこまでやれるか、10年後を見据えながら若者が声を上げてがんばっています。

ゼロからのスタートですが、地元を大切に作る町づくりを、もがきながら自分たちで作ろうとされています。復興に向けての熱い思いを感

じることができました。

そのあと、遠野市に向け移動しました。遠野市は内陸部で津波での被災はありません。沿岸部の後方支援としての活動をお2人の方よりお聞きしました。NPO法人遠野(まごころネット)山、里、暮らしネットフックマネージャーの菊池新一さんよりNPOとして、また、震災時、遠野市の消防長であった奥寺啓蔵さんより消防本部としての活動を聞きました。

まず、菊池さんより民間としての活動をお聞きしました。

主に陸前高田市と大槌町に支援に行っています。遠野市は、後方支援の基地になると震災前に宣言しており、3年前に自衛隊とともに訓練を行っていました。そのため、早い段階から動くことができました。まずはじめに、社協にボランティア受け入れの事務所をNPOと共存して作りました。4月には1日に100人のペースでボランティアが来ていましたが、体制がなかなかできませんでした。5月の連休には、1日に600人のボランティアが来ましたが、泊まる場所を確保するのが大変でした。ボランティアには①しているじゃなく、やらせてもらっているという気

持ちが必要。②自分の命は自分で守る。③ノルマはないので無理をしない。の3原則があり、これを毎朝確認し、活動をしてもらいました。

主な活動は、救援物資の仕分けとその配送がメインでした。避難所には物資がたくさんありましたが、民家に避難している人には物資が届かず、そのため、配送した家は350戸にもなりました。また、NPOで被災者を雇い、ボランティアとコンビにして配送を行いました。そのつづることにより会話がスムーズにでき、ボランティアは気を遣わずに活動できました。

今回説明を聞いて初めて知ったことですが、本格的な炊き出しをするには、保健所の許可がいるということです。許可がないため、毎食おにぎりになり、被災者は当然うんざりしていました。

また、仮設住宅の入居方法ですが、障害者・子ども優先で入居していましたが、コミュニティ単位で入居できなかったため入居者がくたびれないか非常に心配したとのことでした。菊池さんは民間人としてたくさんの活動を行っています。本村でも役に立つことをたくさん聞くことができました。



奥寺さんより話を聞く（遠野市内）

奥寺さんは震災当時、市の消防長で3月末の退職予定が延期になり、4月末まで沿岸被災地の後方支援の先頭に立つておられました。その活動についてお話をいただきました。

遠野市は後方支援を宣言した市。平成19年と20年の2回後方支援を目的として大規模な防災訓練を行いました。この訓練により、遠野市が後方支援の地というのが確認されました。

今回の大震災では、遠野市で震度5強。直後にライフラインは寸断。市役所も中央館が倒壊しました。職員は6時と20時で交代し活動しました。3月13日には電気が復旧し、その日から後方支援災害対策本部に変えて活動を行っています。2回の防災訓練が大いに初動体制に役立ちました。

奥寺さんの話では震災から72時間が重要で、この時にどれだけのことに対応できるかが「勝負」とのことでした。

お2人の話を聞き本村も後方支援を目的とした訓練が必要であると認識しました。後方支援に耐えるインフラも徐々にでも整備をしていく必要があると思います。

20日(木) 4日目、最終日。

この日は、一関市の消防本部で、防災課の佐々木淳悦さんより、3年前に起こった岩手・宮城内陸地震の山津波についてお話を聞きました。

平成20年6月14日、M7.2の地震が起こり、岩手・宮城県で最大震度6強の地震が発生。震源地の近くである一関市栗駒付近では大規模な山腹崩壊(山津波)や土砂崩れが発生。道路や家屋に甚大な被害が生じたほか、崩れた土砂が河川を閉塞するなど、天然ダムの決壊に伴う大規模な土石流の被害が懸念されました。

電話、水道、ガスは3日間使えず、栗駒付近との連絡は衛星電話で対応した。一関市内はそれ

ほどこでもなかったそうですが、山間部の被害が甚大で、3年たった今でも、山津波の工事は終了していません。

山津波は本村でも起こりうる災害の一つです。見て感じた体験を忘れず、今後に活かしたいと思いました。

4日間の東日本大震災現地研修会で、学んだことがたくさんあります。

地震のすごさと怖さ、また、現実を見据え立ち向かった人たちの努力と想いを忘れず記憶し、今後の佐那河内村に活かしたいと思います。

今回、ご協力をいただきました皆様方に参加者一同感謝を申し上げますとともに、一日でも早い復興を願っています。



栗駒の山津波①



栗駒の山津波②



栗駒① 河川閉塞により、川の流れを変えた。



栗駒 復興のモニュメントとして残された祭時大橋

東日本大震災被災地を視察して

村皇防災会連絡協議会 会長 仁羽 悟郎

私たち13人の視察団は仙台空港からバスで海岸沿いを石巻、南三陸町を移動しました。目にした光景は壊滅的な被害を受けた瓦礫の町でした。私は気仙沼市大島を視察した状況を報告します。

気仙沼市立大島公民館長白幡館長、おばか隊長長村上両氏にお話を伺いました。

大島は高台が多く人的被害は少なかったのですが家屋被害は全壊775、大半壊199、半壊86、一部損壊306、計1,366軒、全体の36.5%と大きな被害です。

私は災害時、自助、共助、公助について伺いました。

一番大切なのは自助です。自分の責任で、自分自身が出来る事をやる、集団でやると失敗が多い。次に共助、自分だけで解決出来ない時、地域の人に協力してもらおう。その内にリーダーが自然と出てきます。最後に公助。地域の体制が出来た時、地域や民間に出来ない事を公共でもらいます。初めから公助が出てきまますと必ず衝突します。

村上隊長も、行政が指導するの

は無理。町内会のリーダーが一番良く、必要だとおっしゃっています。また、災害時一番必要なのは、発電機、電池、浄水器、防災拠点がいっかりしている事などをお聞きしました。今後の防災活動に活かしたいと思います。

遠野市沿岸被災地後方支援より学ぶ

村議会議員 長尾 久代

東日本大震災で津波被害を受けた沿岸部の都市は、内陸の県庁所在地盛岡市は物資の搬送や人の移動に時間がかかるため中間地の遠野市を後方支援の拠点としていました。

遠野市の素早い対応が出来たのは、4年前から三陸の災害に備える「後方支援拠点構想」を掲げ整備するよう国や県に提言すると共に、県防災訓練や自衛隊の大規模訓練に住民を巻き込んで実施していました。

今回、この活動が官民の支援につながったと言われています。

南海、東南海地震を想定した場合、我が村は津波の心配は無いと思います。しかし、遠野市のように後方支援の拠点として活動しなければならぬ位置であるとも思います。そのため、立地条件が必要となります。道路網が整備され結節点で

あり、防災ヘリコプターで15分、陸路で1時間の距離であること。十分な機能を果たす施設などが必要であること。しかし、それら機能を満たすには本村ではほとんど無くないでしょうか。

いつ起こるか分からない災害のためには後まわしにせず、国・県に働きかけ施設整備することが大切です。また村民一人ひとりが防災に対して危機感をもち訓練しなければなりません。身の丈にあった支援を精一杯しようと思います。

東北視察研修

村消防団長 岡山 勝明

気仙沼市大島被災地の住民のお話

- ・電気が必要、なにも情報が入らない、携帯電話の充電が出来ない
- ・電気は一ヶ月後に復旧
- ・地元建設業者による、重機での道路整備や発電機、その他資材の活用

ボランティア団体・消防団による被災者の捜索、物資の搬入

- ・年に2回避難訓練に参加していた
- ・地震があつたら高台に避難する準備
- ・普段の生活の中で常に地震津波による避難の話をする
- ・予想以上の津波、過去の地震を参

考にしない

- ・自分の命は自分で守る

大きな自然災害の前には、人間の力では被害を完全に防ぐことはできないことを今回の視察研修で強く思いました。完全な防災が出来なくても、普段の防災に対する準備と心がけで被害を最小限にすることが出来ます。

遠野市では、地理的条件の中で自衛隊・救援物資の受け入れ運搬、後方支援の拠点として重要な役割をしました。

佐那河内村も地理的条件から、地震津波を想定した被災者・救援物資の受け入れ体制づくり、後方支援基地としての役割・重要性を認識しました。

このたび被災地の消防団からは、各種団体組織の中で活動中一番多くの行方不明者・犠牲者(250人)がでています。

村当局には、今回の地震や各地の集中豪雨での活動で消防団の重要性を理解して頂き、消防団の装備・訓練の充実、消防団員の処遇、環境の改善、勤務先企業などの理解向上など、活動環境の総合的な改善のため引き続き財政上、その他の必要な措置をお願いするところです。

議 会 行 事 出 席 報 告		担 当 (出席者)	平成23年10月
10月2日	平成23年度佐那河内村敬老会 (村民体育館) (全職員)		
5日	職員研修会 (農振C) (全職員)		
6~7日	平成23年度町村監査功労者表彰式及び第21回町村監査委員全国研修会 (東京都) (井関、瀬島監査委員)		
7日	じん肺キャラバン乗組行動 (役場) (長尾議長)		
11日	村議会全員協議会 (農振C) (全職員)		
12~13日	四国四県町村長・議長大会 (香川県) (長尾議長)		
16日	ハンセン病回響者 坐席り・日廻り早業 (小中学校体育館) (岡本副議長、大岩職員)		
17~20日	東日本大震災被災地学習 (気仙沼ほか) (長尾議長、仁羽、中野職員)		
23日	第45回村民体育館 (中央運動公園) (全職員)		
24日	10月分例月出納検査 (役場) (井関、瀬島監査委員)		
24日	村農業委員会総会 (農振C) (大岩農業委員)		
24日	特別農業委員会開議 (役場) (特別農業運営委員)		
25日	文教厚生委員会開議 (役場) (文教厚生委員)		
27日	職員協議会 (役場) (全職員)		

魅力ある徳島東部圏域の実現に向けた取り組みを始めます

徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンを策定

佐那河内村は徳島東部圏域の活性化を図るために、周辺の11市町と定住自立圏形成協定を締結し、このたび、圏域の将来像や連携して行う具体的な取り組みなどを示した定住自立圏共生ビジョンを策定しました。今後、中心市である徳島市と周辺11市町村が互いに連携・協力し、さまざまな取り組みを実施していくことで魅力あふれる徳島東部圏域をつくっていきます。

徳島東部圏域が活性化するために

徳島東部圏域は、歴史、文化をはじめ、住民の日常生活や産業分野など多くの面で結びつきを強めながら発展してきました。しかし、現在は、少子化の進行や若者の都市圏への流出などにより、人口が減少傾向にあります。

このような状況が続くと、地域を支える人材が不足し、地域が活力を失い、雇用の場や生活関連サービスの水準を維持していくことが困難になると予想されます。

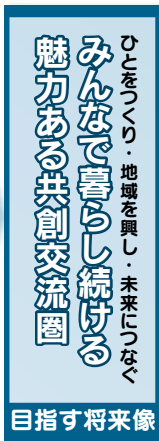
このため、今年3月に佐那河内村と周辺の11市町（徳島市、小松

島市、勝浦町、上勝町、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町）と定住自立圏形成協定を締結し、相互に役割分担しながら、連携・協力して、圏域全体の活性化に向けて取り組んでいます。



定住自立圏共生ビジョンの内容

形成協定の内容に基づき策定された徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンでは、めざすべき将来像を「ひとをつくり・地域を興し・未来につなぐ」未来につなぐ、みんなで暮らし続ける魅力ある共創交流圏」とし、その実現に向けた19の取り組みを定めました。主な取り組みは次のとおりです。



① 生活機能の強化

▼ 圏域内の資源を生かした観光開発、観光誘致

圏域内の自然や歴史、文化など、さまざまな観光資源を生かした広域的な体験型・滞在型観光の開発や観光施設の整備など、圏域全体で新たな観光誘致や情報発信、PR活動などに取り組みます。

▼ 特産品のブランド化・地産地消の推進

圏域内の農産品を生かした料理などを提供する「とくしまーPP P-IN店」の認定、「とくしま食材フェア」の共同開催など、圏域内の農産物のPRや地産地消を推進します。

▼ ② 結びつきやネットワークの強化

就農支援体制の連携強化を図るとともに、圏域内外の就農希望者や意欲ある農業者に対して農地活用等に関する情報を提供します。

▼ ③ 圏域マネジメント能力の強化

▼ 地域づくり活動をを行うNPOなどの団体や個人の育成・支援

地域づくり活動を担う人材の養成講座を開催するなど、NPOなどの団体や個人との協働の促進と圏域内での活動を活性化していきます。

魅力あふれる圏域を創っていく

皆さんが安心して暮らし続けたいと思える魅力ある圏域の創造を目指すため、12市町村では、協力関係を一層強め、交流を活性化させながら、活力あふれる地域づくりや地域を担う人材の育成など、圏域全体の活性化につながるさまざまな取り組みを10月から本格的に実施していきます。

平成24年度



保育所入所申し込み受付について



入所できる基準

保護者が、次の理由により家庭で保育できない場合に入所できます。

- ① 居宅以外で労働することを常態としている。
- ② 居宅以内で家事以外の労働をしている。
- ③ 妊娠中もしくは、出産後間がない。
- ④ 疾病にかかり、もしくは負傷し、または身体に障害を有している。
- ⑤ 長期にわたり疾病の状態にある、もしくは負傷し、または身体に障害を有する同居の親族を介護している。
- ⑥ 家庭が、震災・風水害・火災・その他災害などの復旧にあたっている。
- ⑦ 村長が認める前項目に類する状態にある。



川遊び、たのしかったね！



野菜くずから元氣やさいつくり

入所の年齢など

- ① 生後6ヶ月から保育します。
- ② 低年齢児(乳児・1、2歳児)の年度途中入所は保育士配置基準などにより希望する時期に入所できない場合もあります。



保育時間について

通常保育	平日の8:30から16:30まで
時間外保育	平日の7:30から8:30まで/16:30から18:30まで
土曜保育	8:00から12:00まで

※時間外保育及び土曜保育については申し込み時にご相談ください。
(就業先の就業証明書などが必要になります。)



みんなでお散歩♪

申し込みに必要なもの

- ① 平成23年分給与所得の源泉徴収票(給与所得のある人) または、所得税などがわかる証明書
- ② 就業等証明書(パート勤務、内職などをしている人)
- ③ 自営業就業証明書(自営業の人)
- ④ 病気または、出産前後の証明書(母子手帳の写しなど)
- ⑤ 保育所入所申込書

※①については、受付期間内に添付できないため1月以降にご提出ください。

※②～⑤の証明書・申込書については、所定の用紙が保育所にあります。

※今、入所しているお子様の来年度(平成24年4月～)の保育料算定のため、源泉徴収票又は所得証明が必要です。



1年生と交流じゃが芋掘り



毎月1回の誕生日会

入所の申込(相談)期間

平成23年12月1日(木)から12月12日(月)まで

問い合わせ・申込受付場所

佐那河内保育所 tel 679-2217(IP:5030)



10/31
(月)

ハロウィンパーティー



たくさんのカボチャのお化けが、お菓子を求めてさまよいました。



お菓子をくれないといたずらするぞ

Trick or Treat!!



ありがとうございます。
ふるさと納税!

岡山県在住
吉田正衛さん

篤志によるご寄付を有効に使わせていただき、ふるさとさなごうちの更なる発展を期すとともに、今後とも皆さんからの村への熱き思いを心からお待ちしています。

「ふるさと納税」についての詳しいことは、総務企画課までお問い合わせください。

村住宅リフォーム補助

追加募集受付締切は12月15日

村では、村民の住宅環境の向上と、経済危機対策として村内産業の雇用創出を図るため、村内の施工業者を利用した、佐那河内村住宅リフォーム補助金交付要綱を定めました。

今年度は、当初予算200万円の範囲内において1件につき最高30万円の補助金を交付します。

現在5件の補助決定者があり、今年度の予算が少なくなってきたため、必要書類が整った人からの先着順で決定します。

1. 補助金交付対象

- 佐那河内村に住民登録又は外国人登録を有する者で、村内に引き続き1年以上居住していること。
- 補助を受けようとする者は、当該改修工事について村の他の規程による補助を受けていない、又は受けようとしなないものであること。
- 本人および同一世帯員が、村税を滞納していない者であること。
- 改修を行う施工業者が、村内に主たる事業所を有する法人又は村内に住民登録している個人事業者

2. 補助対象住宅

補助の対象となる住宅は、現在居住している村内に存する個人住宅又は併用住宅の個人住宅部分若しくは集合住宅の占有部分とする。

3. 対象工事

施工業者が佐那河内村内であり工事費(税抜)が20万円以上で、平成24年3月31日までに完了できる工事(申

し込み時点で工事着手済み及び工事完了済み物件は対象外)

補助対象住宅は自ら所有し、住んでいる村内の住宅(集合住宅は専有部分のみ対象)

4. 補助金額

工事経費が20万円以上の改修工事で、補助対象工事に要する費用が20万円から100万円の場合は、20パーセントに相当する額(千円未満切り捨て)、補助対象工事に要する費用が100万円を超える場合は、40パーセントに相当する額より20万円を引いた額(千円未満切り捨て)の補助を行うものとする。ただし、当該補助金の額が30万円を超えるときは、30万円とする。

5. 申請書類等

村住宅リフォーム補助金交付要綱及び村住宅リフォーム補助金交付申請書など必要書類は産業建設課にありますので、必要事項を記入の上、提出してください。

問い合わせ 産業建設課住宅担当まで

住民基本台帳の閲覧状況を公表します

平成18年11月1日に住民基本台帳法の一部が改正され、閲覧状況を公表することが義務づけられました。

住民基本台帳法第11条第3項、第11条の2第12項並びに住民基本台帳の一部の写しの閲覧及び住民票の写しなどの公布に関する省令第3条の規定に基づき、佐那河内村における閲覧状況を公表します。

公表対象期間：平成22年11月1日～平成23年10月31日

◇国または地方公共団体の機関による閲覧

申出者	利用目的の概要	閲覧日	閲覧に係る住民の範囲
自衛隊徳島地方協力本部長	自衛官などの募集に伴う広報	6月20日	平成元年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた者

◇個人または法人による閲覧…該当ありませんでした。

10/2
(日)

徳島県ママさんバレーボールフェスティバルで エンジェル★スター 優勝



徳島県ママさんバレーボールフェスティバル Bグループにて優勝しました。この一年は人数が揃わず試合もあまり出来ませんでした。またいい結果を出せて嬉しく思います。これからも楽しむ事をモットーに頑張っていきます。

一緒に楽しむチームメイトを募集しています。お気軽に毎週木曜日午後8時に小中学校体育館までお越しください。



10/16
(日)

ハンセン病回復者里帰り交流会

10月16日、ハンセン病回復者里帰り交流会が、村小中学校体育館で開催されました。

交流会では、中学生や一般の人から、今までに一番辛かったこと、今まだ偏見はあるか、など多くの質問があり、回復者の皆さんからは、ありのまま、包み隠さずどんな経験をしたかのお話をして頂きました。

私たちは、ハンセン病に対する正しい知識と啓発をしていかなければなりません。

最後に、笠井婦人会長が、「辛く苦しかった時が多かったかも知れませんが、私たち婦人会はいつでも待ちしています。」と交流会を締めくくりました。

岡山県長島愛生園には、本村中分出身の吉田正衛さんが入所しています。また、吉田さんからは、多額のふるさと納税をして頂いています。



10/26
(水)

四電徳島支店より街路灯灯具一式寄贈



10月26日に、四国電力株式会社徳島支店より街路灯灯具一式3灯の寄贈を受けました。

これは、よんでんグループのふれあい旬間行事の一環として、明るいまちづくりに貢献するために村に贈られた物です。

平成4年度から毎年、四国電力さんから贈られ現在、村内92箇所に街路灯が付けられています。

ありがとうございました。

10/30
(日)

近畿府県合同防災訓練



10月30日(日)近畿府県合同防災訓練が小松島港赤石ふ頭及びその周辺を主会場に行われました。

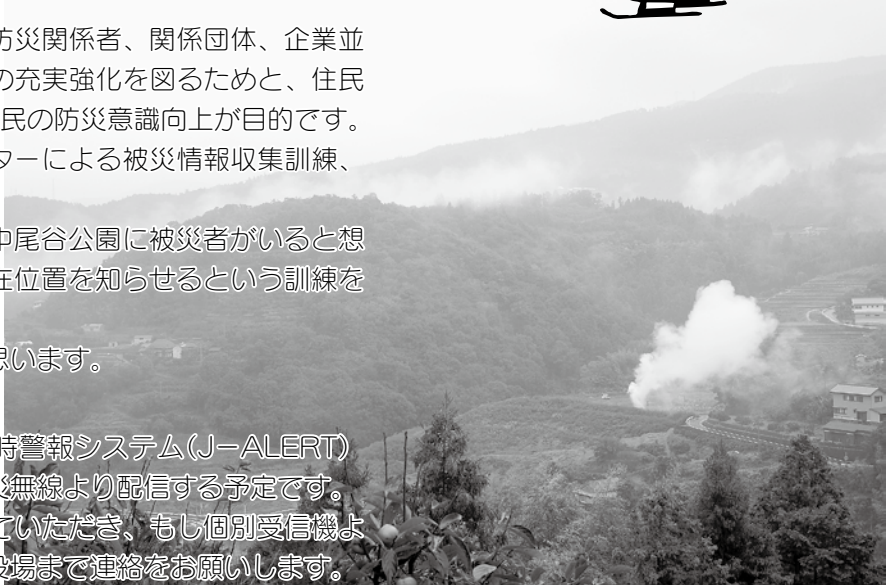
この訓練では、県内及び近畿府県の防災関係者、関係団体、企業並びに地域住民参加で広域的な防災体制の充実強化を図るためと、住民参加による自助・共助意識の醸成など住民の防災意識向上が目的です。

本村では、情報伝達訓練とヘリコプターによる被災情報収集訓練、緊急物資輸送訓練に参加しました。

ヘリによる被災情報収集訓練では、中尾谷公園に被災者がいると想定して、ヘリに向け発煙筒を焚いて現在位置を知らせるという訓練を行いました。

村民の防災意識向上につながればと思います。

※12月1日午前10時15分ごろ全国瞬時警報システム(J-ALERT)を通じて、訓練用緊急地震速報を防災無線より配信する予定です。緊急地震速報が流れたことを確認していただき、もし個別受信機よりこの放送が流れなかった場合は、役場まで連絡をお願いします。



こくねんニュース

国民年金保険料の年末調整や確定申告は、 「領収書」・「証明書」の添付が必要です。

国民年金保険料は、所得税及び住民税等の申告において全額が社会保険料控除の対象となります。また、ご自身の保険料だけでなく、配偶者やご家族の保険料を納めた場合も申告することができます。年末調整や確定申告の手続きの際、1年間に納付した国民年金保険料の額を証明する控除証明書(証明内容は、本年1月1日から9月30日までに納付された国民年金保険料の額と、年内に納付が見込まれる場合の納付見込額です)または領収書が必要となりますので、控除証明書または領収書は大切に保管してください。

控除証明書の送付について、国民年金保険料を平成23年1月1日から9月30日までの間に納付された方は、平成23年11月上旬に日本年金機構から送付されます。また、平成23年10月1日から12月31日までの間に今年始めて納付された方は、平成24年1月下旬に送付されます。

なお、お問い合わせは、控除証明書専用ダイヤルまたは年金事務所までお願いします。

控除証明書専用ダイヤル

受付期間 平成23年11月1日～平成24年3月15日

受付時間 ・月～金曜日 午前8:30～午後5:15 ただし、月曜日(月曜日が休日の場合は火曜日)は、午後7:00まで
・第2土曜日 午前9:30～午後4:00 祝日、12月29日～1月3日は、ご利用いただけません。

TEL 0570-070-117

※一般電話・公衆電話から、市内通話料金でご利用いただけます。 ※IP電話などの人はTEL03-6700-1130へおかけください。

「扶養親族等申告書」は期限までに提出を!

翌年支払われる年金から所得税の各種控除を受けるためには、現在、日本年金機構から送付の「扶養親族等申告書」を提出していただき、年金にかかる所得税の計算を行いますので、提出期限平成23年12月1日までに日本年金機構へ提出してください。

可燃ゴミの袋の中に生ゴミ、カン、ビン、ペットボトルを入れないでください。

可燃ゴミの袋の中に生ゴミ、カン、ビン、ペットボトルが入っています。特にカンやビンは、ゴミを収集する収集員の怪我の原因となるだけでなく、収集運搬車や処理施設の故障の原因にもなりますので、必ず分別にご協力ください。

● 役場前追上駐車場ゴミ置き場所 ●

プラスチック製
容器包紙

倉庫	段ボール	発泡スチロール トレイ	古布類
食用油	雑誌類 雑がみ 紙パック	可燃ゴミ	
	新聞		

水曜日午前 11 時までには可燃ゴミなどを排出できない人のために、追上駐車場ゴミ置き場を火曜日の午後から開放しています。ゴミ置き場の準備の妨げになりますので火曜日の午後以降に可燃ゴミなどを排出してください。

12月14日(水)

粗大ゴミ・家電ゴミ 粗大廃棄物・廃家電製品収集日

■時間 8:30~11:00

■場所 追上駐車場

(粗大廃棄物・廃家電 6 品目)

■手数料 粗大廃棄物：200~2,000円程度
廃家電製品：右のとおりです

※メーカーによって異なります。

※パソコン・ノートパソコンなどは、収集できません。パソコン・ノートパソコンなど廃棄する場合は、破棄するパソコンメーカーのリサイクル受付に連絡してください。パソコン・ノートパソコンなどの廃棄については、村ホームページでご確認ください。

家電リサイクル法に基づく 家電製品処理料金 (参考目安)

(リサイクル料・運搬費・消費税・郵便振替手数料含む)

テレビ	5,055円	洗濯機	4,740円
冷蔵庫	7,050円	エアコン	5,895円
冷凍庫	7,050円	衣類乾燥機	4,740円

※業務用の冷蔵庫等の処理は対象外になりますので、事業所で処理してください。ただし、家庭用の冷蔵庫等を業務用として使用している場合には、対象となります。判別のつかない場合は型名や型番をご確認の上、各製造業者にお問い合わせください。

パソコンリサイクルのサイトの開き方

佐那河内村ホームページ→「暮らしのガイド」→「ごみ・資源・リサイクル」→「パソコンリサイクルについて」の順番にクリックしてください。

佐那河内クリーン対策協議会・佐那河内村

総合健診(特定健診・がん検診・歯科健診)のお知らせ

受診をご希望される人は住民福祉課保健衛生係までお申し込みください。

●健診日程及び場所

検診日程	検診場所	受付時間
平成23年12月2日(金)	佐那河内村農業振興センター	特定健診 9:00~11:30 がん検診・歯科健診 9:00~11:00 婦人科及び骨密度検査は13:00~13:30 (※ただし、乳がん検診は、午前中も受付します。)

●がん検診内容及び負担金

検診内容	負担金	検診内容	負担金
特定健診	1000円	前立腺がん検診(男性)	1000円
胃がん検診	500円	骨密度検査	400円
肺がん検診	100円	(婦人科検診) 子宮がん検診	400円
喀痰検査	300円	(婦人科検診) 乳がん検診	1000円
大腸がん検診	300円		

※生活保護受給者は、負担金は無料です。

高年齢者インフルエンザ予防接種の実施について

- ① 対象者 65歳以上の人
- ② 期間 平成23年11月15日から平成24年1月15日まで
- ③ 実施方法 個別接種(名東郡医師会及び徳島市医師会の会員で、予防接種実施を承諾した医師)
- ④ 料金 1,800円(接種した医療機関窓口でお支払いください)
- ⑤ 接種回数 1回
- ⑥ 申し込み先 住民福祉課 問診表、注意事項などをお渡しします。



せんが、私にとって佐那河内です。過ぎて今年のは、自分が今まで体験した中で最も「秋らしい秋」でした。暮らす環境によって四季の印象もこんなに変わるものなのかと驚くと同時に、こういう秋を過ごすことのできるこの村はとても素敵なのだと感じています。これから寒くなりますが、佐那河内の冬はどんなだろうと冬が来るのも今から楽しみです。

佐那河内に来てから、山や畑、花、野菜といった周りの風景や収穫物、村の人の会話などから季節の移り変わりを感ずるようになりました。ある日突然家の周りの畑から鶏糞のにおい。かと思えば、次の日には満開になったキンモクセイの香りに家中が包まれる。おすそわけでいただいた栗で炊く栗ご飯。「これ、食べられるの?」と思いつつ口に運んだ、アケビやムカゴといった初めて目にする食材。昔に比べ静かになったという秋祭り、その祭りに対する地域の人の思い。小さな子からおじいちゃんおばあちゃんまで、村の人たちがみんなで参加できる体育祭…。

「緑のふるさと協働隊」
「こんにちは、協力隊の本田です。突然ですが、みなさんは秋といえば何を思い浮かべますか?」
今、自分のためしに東京の秋はどんなだったっけ、と思いだそうとしてもこれといって思い浮かぶものはありません。お店の店頭並びに秋冬物の服や食材、どこそこの観光地が紅葉で行楽シーズンを迎えているというテレビのニュース、そんなものからなんとなく季節が移ろうのを感じていたような気がします。

その

45



身近な人間関係と女性の人権

◎人権週間 12月4日～10日
 ◎人権デー 12月10日
 昭和24年から毎年12月10日を最終日とする一週間が人権週間と定められています。

9月21日(水)、第3回佐那河内村人権大学講座を、農業総合振興センターで開催しました。講師にフェミニストカウンセラー河野和代さんをお招きし、「DV・ジェンダーの問題について」という演題で講演をして頂きました。講演要旨について掲載します。

今から100年程前から、「全ての人の人権」という考え方が出現し、さまざまな差異を理由に人権を認めない社会から、全ての人の人権を等しく認める社会へと移行しました。日本では、約50年前から、平等な市民としての諸権利の獲得運動のものと法的な整備が始まり、1999年から2001年の3年間で女性の人権に関わる法律が大きく整備されました。

「高度経済成長のもとでは、日本社会は「男稼ぎ主モデル」という※ジェンダーの観念を作り上げてきました。それが今、社会構造の変化によって行き詰まっています。

※ジェンダーとは…人間には、生物学的な性別がある一方で、社会通念や慣習の中には、社会によって作られた「男性像」「女性像」があり、このような男女の別を「社会的性別(ジェンダー)」としています。

そういつた中で、最近では、男性がごく当たり前のこととして家事を実践している家庭も増えてきています。このような家庭は、固定観念に縛られずに、自分たちの家族の幸せな在り方を試行錯誤していった結果が、こういう家族の在り方だったというのも多いものです。

もちろん、男性が家事をすると家族が幸せになるということではありません。男女平等社会というのは、単に女性を救済しようという考え方だけではないのです。今の社会を、男性も女性もどう生きるか、人と人が理解し合って考えを深めていくことが大切ではないでしょうか。」

「すべての人の心の人権」
 まず自身がのびのび、自分らしく生きよう
 他者の人権を認めるには、まず自分の人権をしっかり意識することが大事
 柔らかな風通しのいい、お互いが尊重しあう人間関係をとにも創る方向へ

みんなで築こう人権の世紀
 ～考えよう相手の気持ち 育しよう思いやりの心～

佐那河内村人権教育研究協議会・佐那河内村教育委員会

さなごうちスポーツクラブ案内

12月

〈農振センター〉
2階和室

健康運動教室
20:00～21:00

〈村民体育館〉

卓球 19:30～21:00
 ※バドミントン 20:00～22:00

- ・※印の種目は活動費が必要です。
- ・ジュニアスポーツ教室は別途案内します。
- ・参加される方でスポーツクラブ未加入の方は、事前に事務局で参加申込・スポーツ保険加入の手続きをしてください。
- ・日程は変更する場合があります。

●お問い合わせ●

さなごうちスポーツクラブ事務局
(教育委員会内)

☎679-2817 IP5006



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
					バドミントン	
4	5	6	7	8	9	10
	健康運動教室		卓球		バドミントン	
11	12	13	14	15	16	17
					バドミントン	
18	19	20	21	22	23	24
	健康運動教室		卓球		バドミントン	
25	26	27	28	29	30	31

日赤奉仕団 長島愛生園 吉田正衛さん訪問

9月16日、日赤奉仕団が長島愛生園在住の吉田正衛さんを訪問しました。この日は吉田さんの98歳の誕生日であり、ささやかではありましたが、参加者でお祝いをしました。

佐那河内村からの訪問ということで、毎日この日が来るのを楽しみにしておられたとのことでした。

また、来年も訪問して、有意義な時間を持ちたいです。



東日本大震災

日本赤十字徳島県支部 第2回炊き出し支援隊に参加して

東部地区佐那河内村赤十字奉仕団 笠井 博美



3月11日のあの日から6ヶ月余りたち、少し秋の気配を感じます。しかし、今でも瓦礫の山や被災地の生活状況が報道されるたびに心が痛んでいます。8月の終わりに、日赤徳島県支部から第2回炊き出し支援隊のお声がかかり、参加させていただきました。

9月18・19日の両日、各地域奉仕団員9名、日赤徳島県支部職員4人と宮城県奉仕団15人との合同で宮城県女川町総合体育館避難所と仮設住宅入居者を対象に毎回500食の炊き出しを行いました。

メニューは徳島から阿波牛の牛丼、スダチのスライスを入れたそば米汁、鳴門金時の大学芋、ミカンと酢の物にならえを準備、山形県からは赤飯、芋煮汁、郷土料理の冷や奴、りんごとブドウを提供、佐那河内村からスダチをいただき「サンマにスダチは最高」とアピール、とても喜んでいただきました。

道中車窓から見る景色は、家屋の倒壊、ビルが根こそぎ倒れたまま、瓦礫の山々、沿岸部は地盤沈下で道路や屋敷跡が水につかったまま、人影は無く、雑草だけは青々と生い茂っている様は、悲惨そのもの、今まで目にしたことのない光景でした。



帰路、電光掲示板に「おだづな!津波」と流れていました。「馬鹿にすな津波!負けないぞ!」という宮城の人々の心境がこの短い言葉に大きな力を秘めていることを知ると思わず涙がこぼれました。本当に東北の皆さんに頑張ってもらいたい、私たちも応援していますと思わずにはいられませんでした。

今回の貴重な体験を私の宝とし、人生の糧にしていきたいと思いを強くしました。

善意銀行だより

- 八九同窓生一同 様
- 北谷伊平様
- 麻植春一様
- 中野宏史様
- ……………金一封

上記の預託金は、「社会福祉のために役立ててください」と寄せられたものです。善意によって膨らんだ預託金を元金とした利子を活用し、地域福祉事業などの推進のため、有意義に活用させていただきます。ありがとうございます。

9月28日(水)徳島健祥会福祉専門学校の河野博史先生をお招きし、「簡単にできる介護の方法について」と題して介護教室を開催しました。

まず寝たきりになる要因と介護の基本・注意点についての説明のあとで、実技指導がありました。

介護の実技指導では、介護される人の残存能力を活かしたり、「てこの原理」を応用して楽にできる介護の方法を学びました。参加された方も「ちょっとしたコツを教えてください参考になった」と言われていました。



佐那河内村地域包括支援センター

■ 場所：特別養護老人ホーム 健祥会ハイジ内

■ 電話：679-3383

■ 担当：久米・大西・佐々木

駐在所だより

平成23年度 高齢者交通安全県民運動

今年も、高齢者の交通事故が無くなることをめざし、「高齢者交通安全県民運動」が実施されます。この運動の頃から年末にかけては年間でも最も交通事故が発生する時期です。特に夕暮れ時から夜間が多くなっています。

運動期間中は各地で交通安全行事や講習会が開催されます。この機会に積極的に参加し、交通安全意識を高め、交通事故に遭わないようにしましょう。

目的

高齢社会の進展に伴い、増加基調にある高齢者の交通事故を防止するため、高齢者の交通安全意識の高揚を図るとともに、交通社会参加者の高齢者保護意識の醸成を図ることを目的とする。

期間

平成23年11月21日(月)から11月30日(水)までの10日間

運動のスローガン

～ お年寄りがいつも示そう交通安全 ～

- ★ 自動車を運転中に、高齢の自転車利用者、電動車いす利用者及び歩行者を見かけたら、その行動に注意して、思いやりのある運転をしましょう。
- ★ 「早めのライト点灯」を励行し、夕暮れ時には自分の車の存在をアピールしましょう。

死亡おくやみ申し上げます (敬称略)

個人情報に関する内容のため削除しています。



日	曜	行事名	とき・ところ	備考
11/16	水	可燃ゴミ・古紙など収集日	時 8:30~11:00 所 追上駐車場	
		5歳児と小学校1年生と交流学習	時 9:30~11:00 所 小学校	
17	木	就学時健康診断	時 9:20~ 所 小学校	午前：視力・聴力検査 午後：内科・歯科・耳鼻科
		健康料理教室	時 10:00~10:15(受付) 所 農振センター1階(会議室)	対 健康づくりに関心のある人 持 材料代200円・米1合・エプロン・筆記用具など
		わんぱく広場	時 10:00~11:20 所 保育所	対 未入所の乳幼児(就学前まで) 保険料(年間)1人600円 問 保育所679-2217(IP 5030)住民福祉課 保健師相談日
18	金	健康づくりチャレンジ教室	時 19:30~ 所 農振センター2階(大和室)	対 特定健診結果で血糖が高めLDLの高めの方 持 運動できる服装・飲料水
24	木	ふれあい昼食会	時 11:00~14:00 所 農振センター	
		すずらん会交流芋ほり・焼き芋大会	時 10:00~11:30 所 保育所	
25	金	健康づくりチャレンジ教室	時 19:30~ 所 農振センター2階(大和室)	対 特定健診結果で血糖が高めLDLの高めの方 持 運動できる服装・飲料水
28	月	新府能トンネル防災訓練	9:30~ 新府能トンネル(神山町側)	
		心配ごと相談・行政相談 特別相談所開設	9:00~12:00 農振センター2階(小和室)	TEL 心配ごと相談直通ダイヤル 679-2432
		いきいき体操教室	13:30~15:30 嵯峨老人憩の家	対 医師から運動制限を受けていない概ね65歳以上の人 持 運動しやすい服装
29	火	健康相談	時 寺谷生改センター 10:00~11:00 保健センター 13:30~14:00 根郷集会所 14:15~14:40	問 住民福祉課 保健師
30	水	可燃ゴミ・古紙など収集日	時 8:30~11:00 所 追上駐車場	
12/1	木	J-ALERT 訓練	時 10:00~ 所 村内全域	
2	金	総合がん検診・特定健診 歯科検診	時 9:00~11:00(受付) 婦人科、骨密度は13:00~13:30 所 農振センター2階(大和室)	対 負担金・問診票等 問 住民福祉課
		健康づくりチャレンジ教室	時 19:30~ 所 農振センター2階(大和室)	対 特定健診結果で血糖が高めLDLの高めの方 持 運動できる服装・飲料水
4	日	三世代交流もちつき大会	時 9:00~12:00 所 保育所	
5	月	いきいき体操教室	時 13:30~15:30 所 寺谷生活改善センター	対 医師から運動制限を受けていない概ね65歳以上の人 持 運動しやすい服装
6	火	健康相談	時 桜集会所 10:00~11:00 宮前公民館 11:15~11:40 嵯峨生改センター 13:30~14:30 嵯峨老人憩の家 14:40~15:20	問 住民福祉課 保健師
7	水	可燃ゴミ・古紙など収集日	時 8:30~11:00 所 追上駐車場	
8	木	わんぱく広場	時 10:00~11:20 所 保育所	対 未入所の乳幼児(就学前まで) 保険料(年間)1人600円 問 保育所679-2217(IP 5030)住民福祉課 保健師相談日
9	金	健康づくりチャレンジ教室	時 19:30~ 所 農振センター2階(大和室)	対 特定健診結果で血糖が高めLDLの高めの方 持 運動できる服装・飲料水
12	月	心配ごと相談 人権擁護相談所開設	時 9:00~12:00 所 農振センター2階(小和室)	TEL 心配ごと相談直通ダイヤル 679-2432
		いきいき体操教室	時 13:30~15:30 所 根郷集会所	対 医師から運動制限を受けていない概ね65歳以上の人 持 運動しやすい服装
14	水	粗大廃棄物・廃家電・ 可燃ゴミなど収集日	時 8:30~11:00 所 追上駐車場	詳しくは14ページをご覧ください。
15	木	健康料理教室	時 10:00~10:15(受付) 所 農振センター1階(会議室)	対 健康づくりに関心のある人 持 材料代200円・米1合・エプロン・筆記用具など

NPPO法人「大川原」

佐那河内村に、初めてのNPPO（特定非営利活動）法人が誕生しました。その名前は「大川原」といいます。

このNPPO法人は、「大川原高原一帯の豊かな自然と希少生物の調査・保護を行い、環境保全に努めると共に、環境体験学習や交流イベントなどを通じて、子どもたちをはじめ広く県民に環境保護の大切さを訴え、人と自然が共生する社会と地球環境の向上に寄与することを目的」として活動します。

今年の八月一日に法務局に登録したばかりの団体です。そのため、村内の各種団体と協力してNPPO活動を進めていきたいので、ご協力をお願いいたします。

組織の管理・運営を行う理事・監事は、全員で十人。中津の伊藤博美さん（代表理事）他、村内の協力者およびネイチャーセン



旭ヶ丸での作業風景
(台風で通れなくなった観察路の倒木を除去しました)

今月の自然観察会 (要予約)

11/23(水・祝) 10時~14時	山の鳥観察会
12/4(日) 10時~15時	冬の自然塾 「冬の森観察会」
12/11(日) 10時~15時	野生動物観察会 「サルを追跡」

■お申し込み・お問い合わせ先
ネイチャーセンター (☎ 679-2238)

ターの関係者と有識者で結成されました。NPPO法人という言葉はよく聞かれると思いますが、一言で言うと、「法定められた活動を行うために都道府県の認証を受けて設立した集団」なのです。県民への不特定かつ多数のもの利益の増進に役立たなければなりません。これから、その具体的な活動を行うための準備を進めています。まだまだ協力が少ないので、会員も募集しています。興味のある方は、是非ご連絡をお願いします。

村内の皆様にあられる情報発信地をめぐらせていきますので、どうぞご理解とご支援よろしくお願いいたします。(市原)



鯖の千草焼き

旬のお魚・野菜をたっぷり入れて下さい。



《作り方》

- 鯖は3枚におろし、皮を取ってぶつ切りにする。
フードカッターに鯖とAの調味料をいれ、身が荒く残るようにかける。
- 人参・しょうがは3cm長さの細いせん切りにし、えのき茸は石づきを切り落とし3つに切り、ほぐす。細ねぎは小口切りにする。
- ①・②を混ぜ合わせ1人3コにまとめる。
- フライパンに油を熱し、両面焼き色がつくまで焼く。
- 皿に④を盛り、付け合わせにうさぎりんごと塩茹でした野菜をつける。

★ポイント★

子どもたちにはスキムミルクを入れたりしてみてください。

《材料(4人分)》

鯖	240g	人参	40g
塩	小1/3	しょうが	10g
卵	1コ	えのき茸	80g
A さとう	小2	細ねぎ	20g
みそ	小2	りんご	中1コ
片栗粉	大2 1/2	オクラ	8本
サラダ油	小2	(ブロッコリー)	(1/2株)

しあわせごはん

ヘルスメイト(食生活改善推進員)のおすすめレシピ

1人当たり 栄養成分	エネルギー 240kcal	たんぱく質 16.8g	脂質 11.0g
	炭水化物 19.7g	カルシウム 37g	塩分 1.0g